

Q 農業を続けながら
太陽光発電もできるの？

A 営農しながら支柱を立てて
太陽光パネルを設置できます。

耕作地で地上から3mほどの位置に太陽光パネルを並べ、営農と一緒に太陽光発電を行うことができます。ただし、パネル支柱部分を一時転用する必要があります。作物にとって、強すぎる光はかえってストレスになることがあります。これを適度に遮りつつ、電気を生み出し、売電による収入を得ることができます。これを営農継続型太陽光発電といいます(ソーラーシェアリングという場合もあります)。



Q 小水力発電って
どんなところできるの？

A 落差があり、流れの多い
ところが適しています。

考えられる場所は、一般河川、ダム、農業用水路、上下水道施設、工業用水など様々です。身の回りに当てはまる環境があれば、専門家の人と相談してみましよう。

水利権の取得が必要な場合もあります。この件についてはお近くの河川事務所に問い合わせるのがよいでしょう。



《 再エネ事業 》
わからないこと、
あれこれ

「答えてくれた人」

農林水産省食料産業局
再生可能エネルギーグループ長

土橋 信昭氏

Q 木質バイオマスの原料調達は
どうすればいいの？

A それぞれの地域で
適した方法が異なります。

木質バイオマスには、森林から直接得られる燃料と、木材加工から生じる端材・木くず、あるいは産業廃棄物による燃料があります。

燃料の配送、貯蔵、搬送がポイントとなるため、自分の地域の資源量をきちんと見極め、無理の無い計画を作りましよう。



Q 再エネ事業を始めるにあたり
どんなサポートがありますか？

A 経済的サポート・手続きの
サポートなど様々です。

ここ数年、再生可能エネルギーのサポートはどんどん充実してきています。

補助金だけでなく、計画・準備・実行・運営とあらゆる段階において、様々な団体がアドバイスをしてくれます。地域ごとにそれぞれのサポートを行っているので、まずは自治体に相談してみましょう。



Q どんな地域なら
風力発電ができるの？

A 大きく3つの
ポイントがあります。

風力発電に向いているのは、①十分な風が吹き、②風車やその部品を運ぶためのルートがあり、③送電線と接続できる地域です。

①についてはNEDO(後述の参考資料参照)の風況マップで確認してみましょう。年平均風速で6m/s以上が目安と言われています。



実際に再エネ事業に取り組むときは、専門事業者や担当省庁などの行政に相談すると、アドバイスがもらえます。参考資料や農政局担当連絡先一覧もご覧ください。



Q 環境への悪影響は
ないのでしょうか？

A ゼロとは言えませんが、
工夫次第で軽減できます。

あらゆる技術はどうしても環境に負荷をかけてしまいますが、その強弱があります。再生可能エネルギーも例外ではありませんが、その影響はこれまでのエネルギーより小さくできます。

専門事業者と相談しながら、より環境にやさしい事業を作っていきましょう。

